

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 24 年 6 月 7 日 (2012.6.7)

【公開番号】特開 2010-98710 (P2010-98710A)
 【公開日】平成 22 年 4 月 30 日 (2010.4.30)
 【年通号数】公開・登録公報 2010-017
 【出願番号】特願 2009-104084 (P2009-104084)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 7/32 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N 7/137 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 4 月 18 日 (2012.4.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3 1】

前記位置設定ステップでは、前記参照画像リストに前記新規参照画像が含まれない場合には、前記新規参照画像が前記参照画像リストに含まれないことを示す前記位置情報を生成し、

前記エントロピー符号化ステップでは、前記新規参照画像が前記参照画像リストに含まれないことを示す前記位置情報をエントロピー符号化し、

前記予測信号生成ステップでは、前記新規参照画像を含まないように前記参照画像リストを更新する、

ことを特徴とする請求項 2 9 又は 3 0 に記載の動画像符号化方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 6 3 】

なお、上記のような新規参照画像の生成においては、式 (1) に示すとおり、観測行列 C はベクトル $x_t, x_{t+1}, x_{t+2}, x_{t+3}, x_{t+4}$ から求められており、フレームメモリ 1 0 4 に過去に参照画像生成部 1 1 3 によって追加された新規参照画像は用いられていない。但し、新規参照画像の信頼度が高い場合には観測行列 C などの算出にそれを用いてもよい。また、新規参照画像の生成においては、特異値分解以外の方法を用いてもよい。例えば、固有値分解、LU 分解、コレスキ分解が挙げられる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 9】

